



言葉の奥にあるもの

校長 土屋 信行

A：あたし、国語であと15点取らないと高校だめだって。

B：15点なんてチョロいよ。

A：あんたんちのお母さん優しそうだね。

B：そんなことないよ。めっちゃうるさいよ。

A：うちなんか、声も聞きたくない。ねえ、髪切ったでしょ。

B：これ、嫌なの気に入らない。

A：かわいいじゃん。

(次の駅でBが降りる)

A：あいつ、やな奴だよ。 C：友達、いないんじゃない。

D：口のきき方が嫌い。

〇Aは、こうもりだと思う。結局どちらからも相手にされなくなる。

〇AがBを悪く言ったのは、「15点なんてチョロいよ」と、上から目線で言われたからだと思う。受験が間近に迫っていて、焦りとストレスでつい言ってしまったんだと思う。

〇Aは、おそらく誰かと一緒にないと不安になるタイプだと思う。CもDも同様な気がする。

〇Aは、真面目で親の期待に応えようとしているのだと思う。それで、プレッシャーもなく自由にしているBを見て、うらやましい、ねたましいと感じたのだと思う。

これは、ある大学で講師をされている私の先輩が、夜の電車の中で実際に耳にした塾帰りの女子中学生の会話(上段)と、この会話に対する何人かの大学生の感想(下段)です。

同じ場面に出会っても、人によって受けとめ方は違います。そして、どの解釈が正しいと言い切れないことも多々あります。ただ、子供たちの言葉の奥にあるものは単純ではないということを、上記の会話と大学生の感想は教えてくれています。

私たち大人は、子供の声にしっかりと耳を傾け、言葉の奥にあるものを感じ、気持ちに寄り添い、よりよく生きる道を共に考えていくことが大切なのではないでしょうか。

